

新浜の備前さん

平成十年四月五日号

田子浦地区の新浜に「備前さん」と呼ばれるお堂があります。ここには、備前の国から幕府の御用米を積んできて転覆した船の乗組員を祭っています。

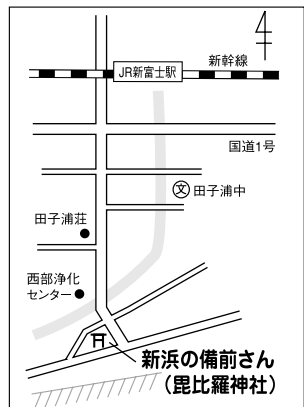
今回はこの「備前さん」にまつわるお話を紹介します。

昔、備前の国（現在の岡山県の一部）から、幕府の御用米を積んできた船がしけに遭い、航路を間違えて駿河湾に入ってしまった。そこで仕方なく田子の浦港へ入ろうとしまし

た。しかし、田子の浦へ流れ込む富士川は日本でも指折りの急流です。

船は転覆し、ほとんどの乗組員が海に落ちて亡くなってしまいました。その死体は、大部分が新浜に上がりました。生き残った乗組員と新浜の人々は、石塔を建て、亡くなった乗組員たちを手厚く供養しました。

ところが、長い年月が過ぎ、たび重なる天災も手伝って、石碑はすっかり埋もれてしまいました。人々の記憶からも消えてしまいました。ある年、この付近に悪い病気がはやって、人々は大変困っていました。次の年になって、病気は一向におさまりません。そんなあ



る日、新浜の信心深い老人が「あの石塔を祭つてあげなければいけない」と言いました。新浜の人々は、早速お堂を建て、再び供養することにしました。するとその次の年から、病気はびたりとなくなつたといふことでした。

それからそのお堂は「備前さん」と呼ばれ、人々は身の安全や大漁を祈るようになり、いつの間にか願ひ事がかなうと言われるようになりました。現在は「金比羅さん」やほかの神様とともに、大切に祭られています。

新浜の歴史に詳しい

岩山 勝まささん（川成島）

「備前さん」は大正初期までは大小二つの墓碑のみでしたが、変遷を重ね、昭和二十二年に今の場所に移動しました。そのとき境内に敷いた石は、新浜区民が一軒当たり二十個の石を海岸から拾ってきたものです。そのこ



▲ 「備前さん」を祭る境内

ろは、「備前さん」に身の安全や大漁を祈る人が多かつたですからね。

また、新浜の海岸は海難事故が多いところでした。昔は浜で事故が起きたり、台風などで被害が出たりすると、村じゅう総出で助けに行つたものです。明日は我が身、という思いでした。昔はみんな信心深く、思いやりがあつて、そこに住む人々の気持ちさまとまっていたんですね。